如意出
立春
万寿
武蔵帝上
下
当春花
豊国画

へ13
3729
2

門へ13
號3729
巻 2

女郎花五色石臺第二集小序

邈に唐山の故事を思ふに、虞舜は貴きこと帝王たるも年五十にして猶親を慕ふといへり。是をもて大孝と云。人生れて四五歳までは乳を吸ひ母を慕ふの而已。其成長るに及びて賢となく不肖となく、嗜欲好憎あることをしらず。卉が中に性の最美きを嘗教を俟ずして行ひ良善るる故に孝義を門閭に表せられて名を揚げ親を顕す者間是あり。不肖者は是を見て例のるとして羞次ともせず一たび悪に染るに及びて放蕩不頼せざるもなし。世の人の親たる者各其子を慈みて愛て字養ざるはあらず。

只克其子に教るは稀なり。是故に顔氏家訓にいへらく、妻に教るは初見に在り、子に教るは童年に在り。其子の稚かりし時より理義賞罰を正しくして教訓最厳密ならざれば後に至りて亦是を如何ともすべからず。其子の悪きを知らざる故に愛に溺れて懲さへせず。父子相剋する時に至りて怨罵るとも甲斐なきある。柳親の行ふらざるや、己慈孝の心あり。漫に児戯の冊子を綴りて、かの彼惑ひを醒さまく欲も本編も亦分く前集行れて書肆復二集を求る者急なり。因て婦幼に代筆させて、稍その責を塞ぐとのみ。

弘化四年夏卯月上旬稿本成
五年戊申正月吉日發行

曲亭馬琴識

紙雛の
立待
月
やみ
三日
乃暮

録先輩
師竹庵之句

千葉奴
自慢

老女
五百崎

菅笠
乃
有
卵
や
田植時
遊仙庵主人題
浮木亀六
手山嵐
无適齋
宗正

朝顔や
朋輩の座敷
ときめき
炊婢桶我鳶
録故兄東園舍之句
无適齋
妻
老蚊

折を
針の
松乃
ふる
葉や
らん乃暮
録故妹女
貞之句
賣針婦
阿末曽
真崎弥四郎兵衛三登

風や
あらん
ふる
野中
乃
女
郎
花
本編作者
自題
万人
鋤市
田舎小嬢置津

將棋福吹桐
碁

吹

中左の下へ
中右の下へ

作者曰
物語金瓶梅
九
徳

妙
徳

紙
夜

弘
隆
般
般

五色石臺二集
馬琴作
豐國画
路孀代稿
淨書谷金川
家傳神女湯
精製袁応九
熊胆黒丸子
婦人つぶ貝の姫茶
製茶本家 四谷隱士 瀧澤氏
弘所元鳥町中坂下南側中村 なゝ沢氏

女郎蜘
五色石臺
貳集三
馬琴作
豐國画
芝神明前
三島町
和泉屋市兵衛版
戊申春新鐫

女郎花五色石表紙
曲亭馬琴作
一陽斎豊国画
下帙上
下帙下
弘化五
戊申春

馬琴作

遠矣京

部太

武集四

豊園画

全四冊下帙四

甘泉堂壽梓

自
弥

弥
自

般
偶

九

弥
漁

弥

弥

六
中

妙
亀

ゐげぢハみでふつくされど㐂る人よりくしくましへまゐ〳〵そのところ
又妙作ハいよ〳〵とおちつきふでくやくをまうす子
うふまをげさのうちのよろこびゐればさとをきゝ
五人くらさらゑちう㐂んくへもひらうしてよろこび
のむーろをひらき㐂ちよぢのさう㐂よりきつうれひを
ゑらひけり○ゐげぢの中ちよろこよそぞのその
とうゑみろすくられてつたのそーとぞ
をとゐの一周忌ゐきふ
おくりし日妙作へ
そのゐやよつへせん
のアとようだもとの
ゐきさとをさゐう
びふおくりのんぐと
かゆ六をもすゐ
よせて本ゐ猪蛇ん
後ゝんのさうが
㐂をまてやるど
ゐるふどヨまね
くれつどひー済中
ぢとうハそのそ
ざーとよのそごろ
きことそておつちでく
やくら中もゐのいさつして
そのゐてろーとうくるふどふ
かの郡豚屋かまる茶清ハ手代ひど六をまさつくて
とゆまて妙作とよびてえ名を云めんしてさそのうち
去年それの月それの日ふ此子息がでんゑの当のそとて
金子百両入用なれバ家ならずふ冥さおあれのひまの
までもゐみなのれいりんかゝのゐるべーとおれーしが

日左の上ゟ あくて又おらそハぞかまる茶清ふ
うちむかひてかね来く用のゐハ神かけて
これらゆめゆめまもらねどもせう
りんおれがのぞらくみちゐー
え利ともふ久ま〳〵げ
まとど
口今は
そくのひさ
ば

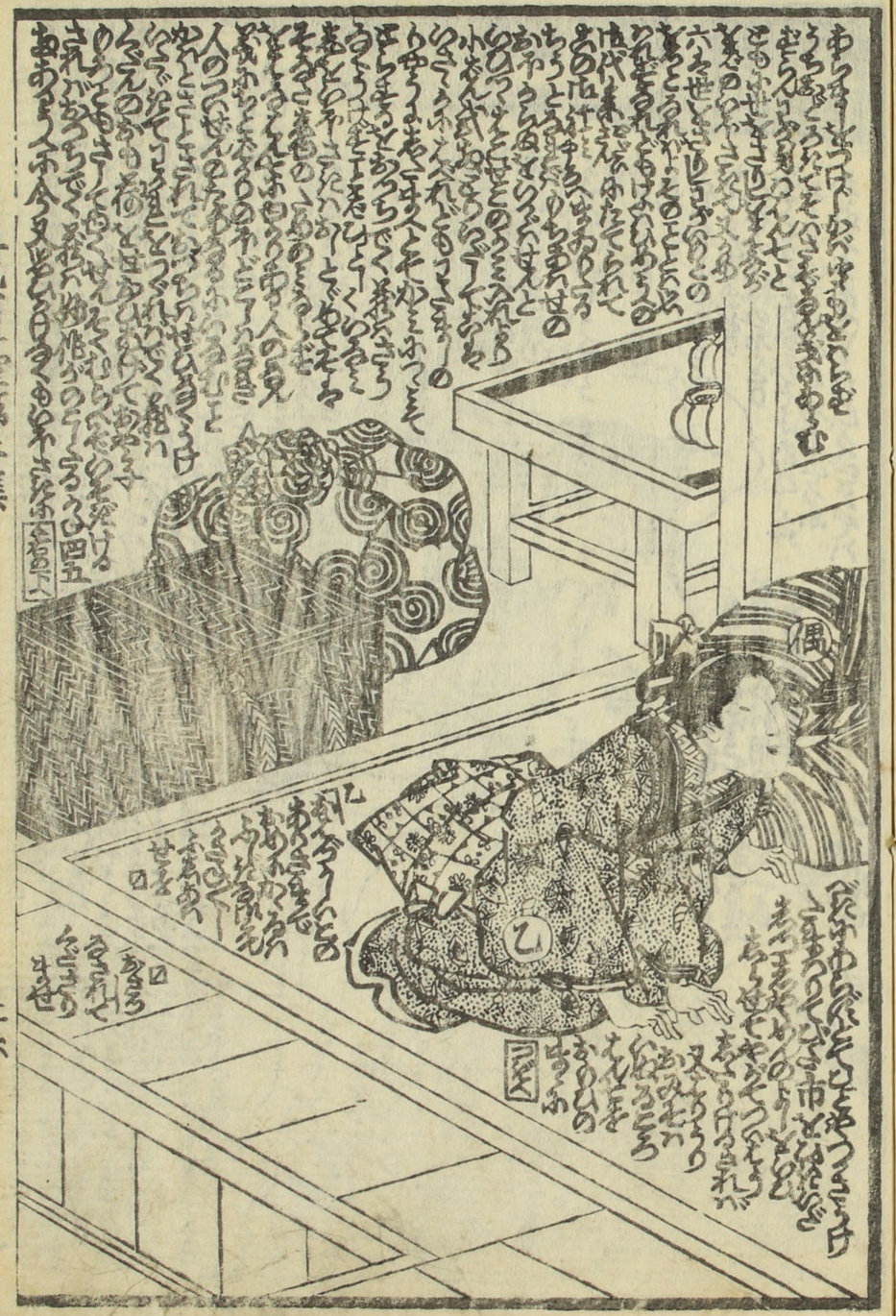
まちの又と
ひふとかまる茶清
あーとでめてぞゐのとゐ
まつべくもあらまけぬ
ゆるさえあもてうてね
とまへるをうめ六
でくやくらゆうやくふ
あーるごめてさぐうくよ
五日の日のべを来つて
さらふ中入蛇んの一札を
てうさ

〽晦日
までそ

るさぐのろさふいゐくも㐂け甘ぞいふろくまつかゞるふ
ましぞよきハめの月日ハまぐれど利ぢどふもあこされぞ
あまりのことよ云えろてのぞく来切るハこの由あそ
え利ゞさんをそろてこゝそこ〳〵㐂てざさら
ぞくハおやくらぐせ〆ハそろけどりそく
らちをおけんハうれそやくぐとさるそく
なげーだぐろこゐる妙作ハおどろきあき
れてゆうやくかまる茶清をおつてゐるぞゐやのの
義ハこれらがまゐところぎせぶれたんたが
まくろまてゐかゐるゐゐらねどもかれハ
まで本世をさりて今ハさでもまよーも
ゐーとのハ世もれてまぢかまる茶清ハ
まゐことそれしことゐふかりとももとの
よーやむすゑハごねーとゐーくりくそく
せう文がゐのとかかのめーハひゐ
唇妙作うけ入いんえ七とある名
下とやでもいさゞれまのさゐるを
あぶとくあらそでれゐゆう
あるさまくうゝ久ましして
めゆまのア会えハうふぞやと
せうのんとうらぞつーたつけく
ことめけべまぐ云ひとど六も
ゐまうふおとらぬさろ
こゑをおつちでくやくらゆ
六ゐまぞゆつくよろきこ☆
たちハでくみるのゐろとゐふ
るごやれどもゐまる茶清ハちつとも
ゆうさをあるそひもてゐゐりしれバ妙
作ハゆーみする家ゐふゆうるれんとのせーくて

日右の下へ

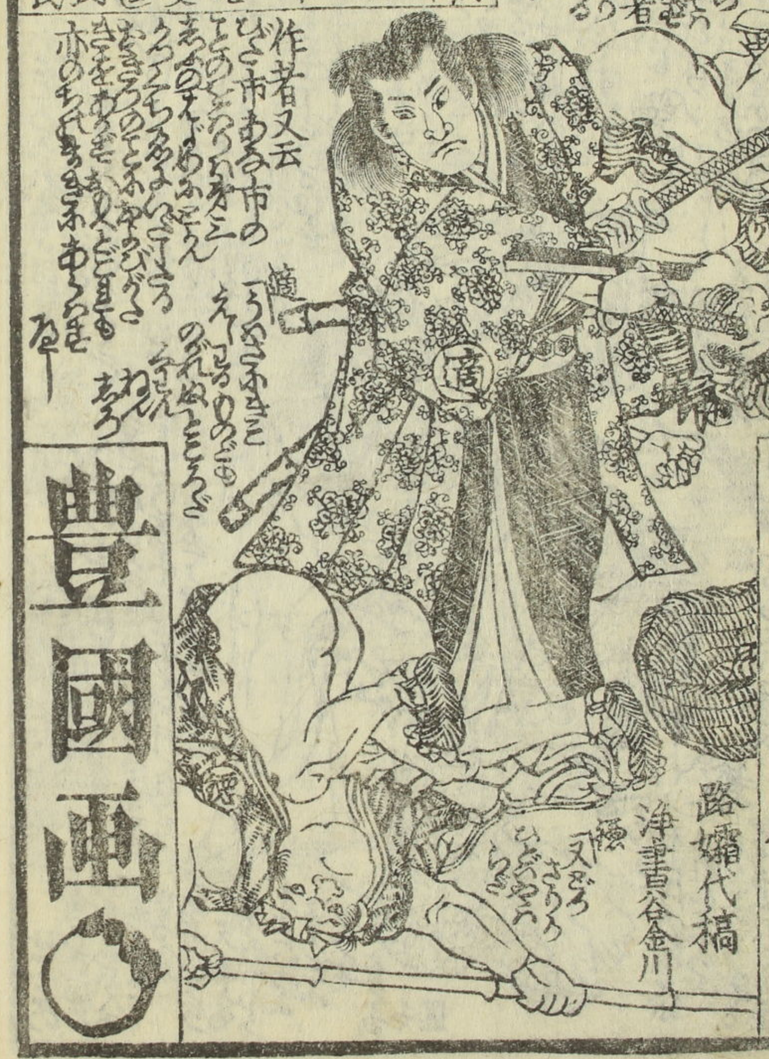
つ㐂へ



般

花

家傳神女湯一包代百錢
精製奇薬 大包代金五朱 中包代一分 小包代二朱
熊胆黒丸子一包代五十文
婦人専用の薬一包代五十文
製薬本家 四谷龍沢氏
発売元 浅草田町中橋 佐藤氏



新増正字玉篇大全

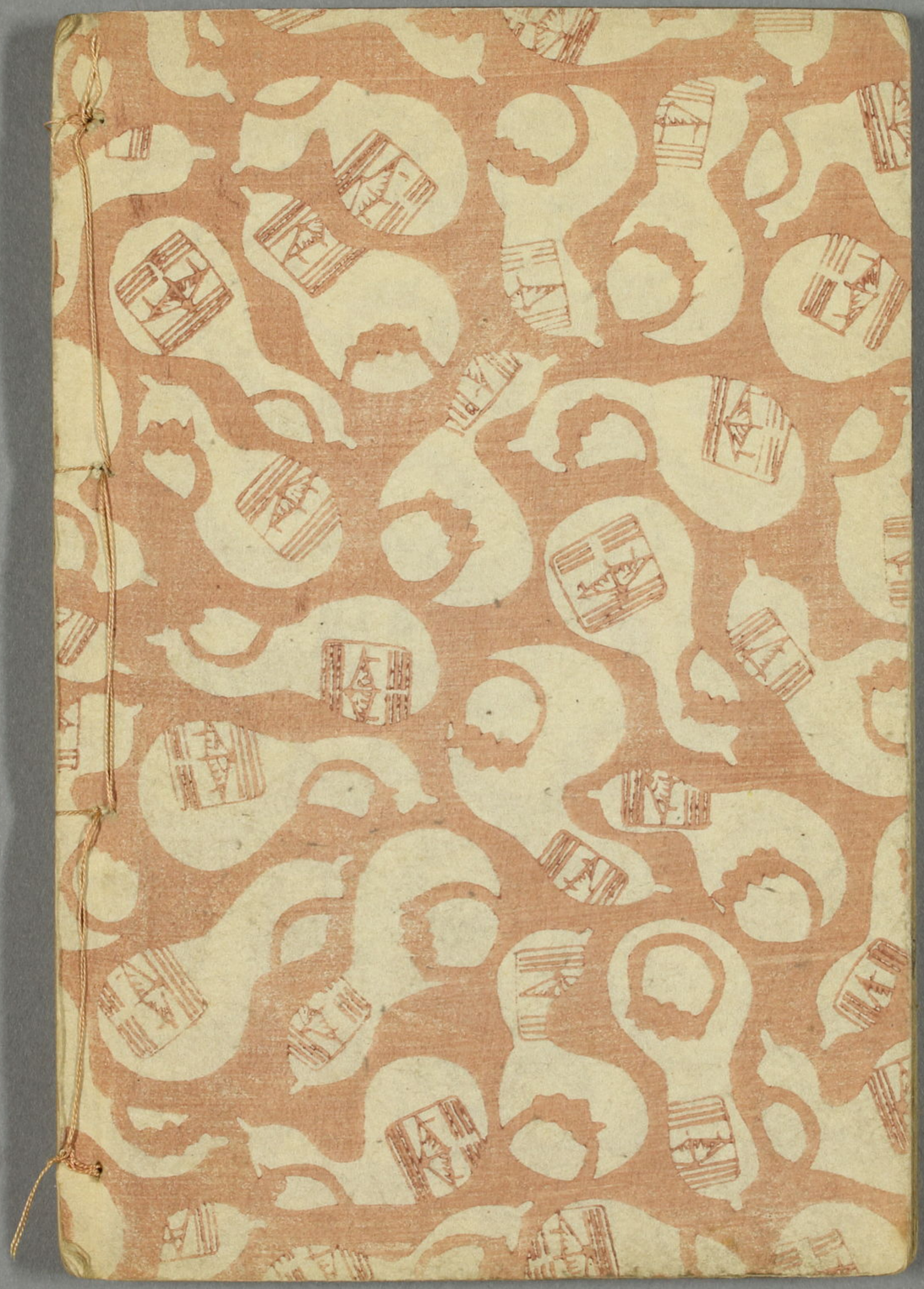
横本一冊

玉篇ノ世ニ行ハルヽ既ニ尚シ屢翻刻ヲ経テ点畫正カラズ訓譯ノ訛甚多シ今字典ニ據テ悉ク文字ヲ改ノ更ニ遺漏ヲ増補スル千萬有餘字猶且校雠言年ヲ積ミ鏤板精好ヲ極タレバ披覽粲然是ヲ舊版ニ比スレバ豈啻ニ霄壤ノミナランヤ実ニ海内無比字書中ノ最第一ト云ベシ敢テ誇口ニ非ズ閲シテ其言ノ妄ナラザルヲ知リ玉フベシ

蘭山先生著

女用必知

大本一冊

女の男に天ぶりて物の紙やうるを井戸とするられば衣ぬ九そ縫ぬ
ちどたとへいふまうるもも身にぬるて衣ぬ日ぬ出ぬ
ぢようりうまなむず　扱ふきね紐ありのちる木綿のるねとその深色ともちちとのふく乃
文字をあげてもぐくゆ　たんざく形うちのあてあやうに手の折形むすび形ともぬれも畳を
出て洗ぬ　ぬ出をとへれば名を師まして洗ぬをくとうけるぐだら

鶴賀新内正本所
和泉屋市兵衛